

「令和4年度富山市中学校1年生学力調査」  
結果の概要について

富山市教育委員会



# 「令和4年度富山市中学校1年生学力調査」結果の概要について

## I 本調査の目的

- ・各中学校が、1学年生徒の入学時の学力定着状況を把握し、今後の学力向上に向けた学習指導に生かす。
- ・生徒一人一人が自分の努力すべき課題に向かって、意欲的に学習に取り組む。
- ・各小学校は、卒業生の調査結果を踏まえ、学習指導の改善・充実を図る。

## II 実施状況

- 1 実施期日 令和4年4月12日(火)、13日(水)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

| 実施学校数               | 生徒数  |                        |
|---------------------|------|------------------------|
| 26校 1分校<br>(附属中を含む) | 在籍数  | 3,433人                 |
|                     | 受検者数 | 3,289人 (5教科全てを受検した生徒数) |

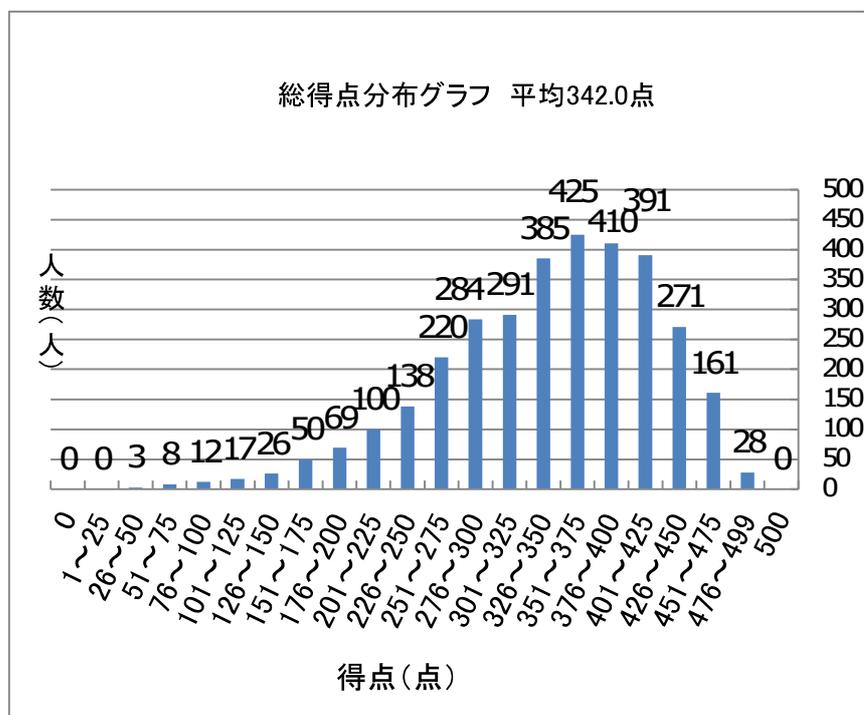
## III 結果の概況(小数第2位で四捨五入しているため、計が100%にならない場合がある。)

### 1 教科別全生徒平均点

| 国語    | 社会    | 数学    | 理科    | 英語    | 5教科    |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 59.3点 | 60.2点 | 70.4点 | 68.3点 | 82.9点 | 342.0点 |

### 2 総得点分布表・グラフ

| 得点範囲    | 度数   | %      |
|---------|------|--------|
| 500     | 0    | 0%     |
| 476~499 | 28   | 0.9%   |
| 451~475 | 161  | 4.9%   |
| 426~450 | 271  | 8.2%   |
| 401~425 | 391  | 11.9%  |
| 376~400 | 410  | 12.5%  |
| 351~375 | 425  | 12.9%  |
| 326~350 | 385  | 11.7%  |
| 301~325 | 291  | 8.8%   |
| 276~300 | 284  | 8.6%   |
| 251~275 | 220  | 6.7%   |
| 226~250 | 138  | 4.2%   |
| 201~225 | 100  | 3.0%   |
| 176~200 | 69   | 2.1%   |
| 151~175 | 50   | 1.5%   |
| 126~150 | 26   | 0.8%   |
| 101~125 | 17   | 0.5%   |
| 76~100  | 12   | 0.4%   |
| 51~75   | 8    | 0.2%   |
| 26~50   | 3    | 0.1%   |
| 1~25    | 0    | 0.0%   |
| 0       | 0    | 0.0%   |
| 計       | 3289 | 100.0% |

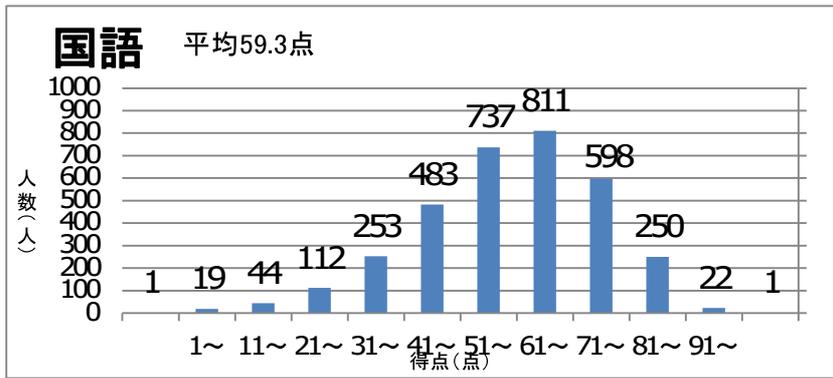


3 教科別得点分布表・グラフ

(小数第2位で四捨五入しているため、計が100%にならない場合がある。)

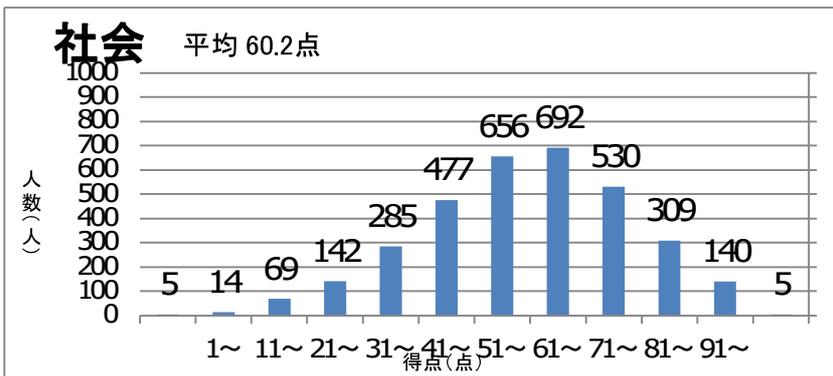
国語

| 得点範囲  | 度数   | %      |
|-------|------|--------|
| 100   | 1    | 0.0%   |
| 91~99 | 22   | 0.7%   |
| 81~90 | 250  | 7.5%   |
| 71~80 | 598  | 18.0%  |
| 61~70 | 811  | 24.3%  |
| 51~60 | 737  | 22.1%  |
| 41~50 | 483  | 14.5%  |
| 31~40 | 253  | 7.6%   |
| 21~30 | 112  | 3.4%   |
| 11~20 | 44   | 1.3%   |
| 1~10  | 19   | 0.6%   |
| 0     | 1    | 0.0%   |
| 計     | 3331 | 100.0% |



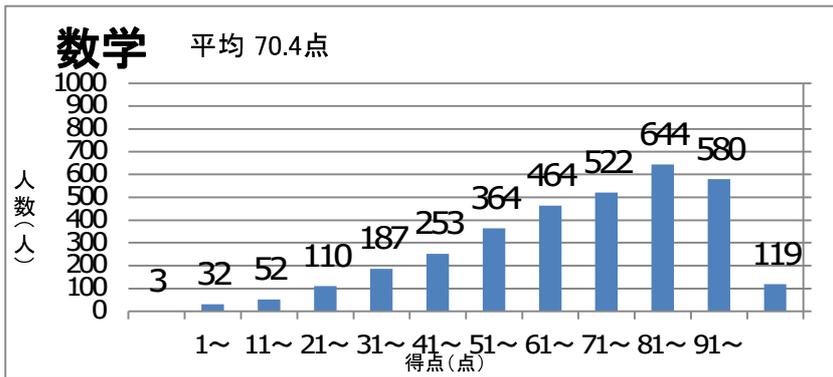
社会

| 得点範囲  | 度数   | %      |
|-------|------|--------|
| 100   | 5    | 0.2%   |
| 91~99 | 140  | 4.2%   |
| 81~90 | 309  | 9.3%   |
| 71~80 | 530  | 15.9%  |
| 61~70 | 692  | 20.8%  |
| 51~60 | 656  | 19.7%  |
| 41~50 | 477  | 14.4%  |
| 31~40 | 285  | 8.6%   |
| 21~30 | 142  | 4.3%   |
| 11~20 | 69   | 2.1%   |
| 1~10  | 14   | 0.4%   |
| 0     | 5    | 0.2%   |
| 計     | 3324 | 100.0% |



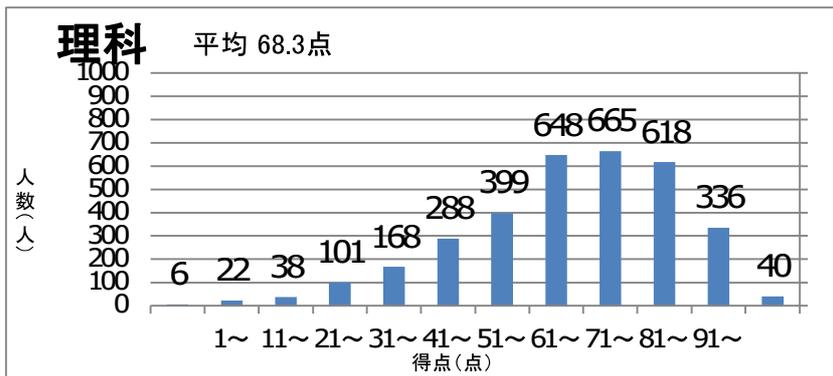
数学

| 得点範囲  | 度数   | %      |
|-------|------|--------|
| 100   | 119  | 3.6%   |
| 91~99 | 580  | 17.4%  |
| 81~90 | 644  | 19.3%  |
| 71~80 | 522  | 15.7%  |
| 61~70 | 464  | 13.9%  |
| 51~60 | 364  | 10.9%  |
| 41~50 | 253  | 7.6%   |
| 31~40 | 187  | 5.6%   |
| 21~30 | 110  | 3.3%   |
| 11~20 | 52   | 1.6%   |
| 1~10  | 32   | 1.0%   |
| 0     | 3    | 0.1%   |
| 計     | 3330 | 100.0% |



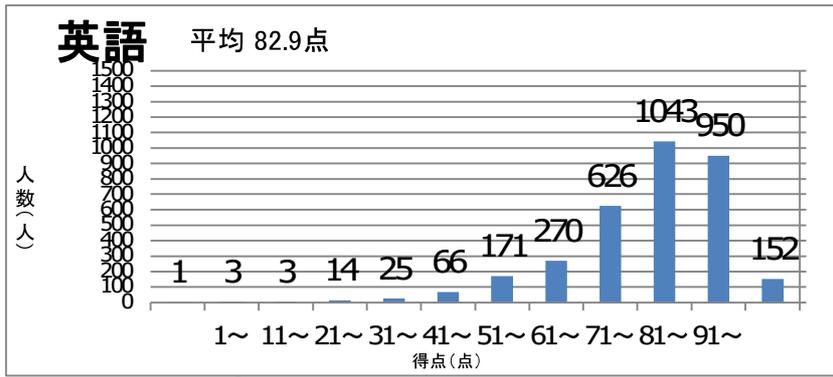
理科

| 得点範囲  | 度数   | %      |
|-------|------|--------|
| 100   | 40   | 1.2%   |
| 91~99 | 336  | 10.1%  |
| 81~90 | 618  | 18.6%  |
| 71~80 | 665  | 20.0%  |
| 61~70 | 648  | 19.5%  |
| 51~60 | 399  | 12.0%  |
| 41~50 | 288  | 8.7%   |
| 31~40 | 168  | 5.0%   |
| 21~30 | 101  | 3.0%   |
| 11~20 | 38   | 1.1%   |
| 1~10  | 22   | 0.7%   |
| 0     | 6    | 0.2%   |
| 計     | 3329 | 100.0% |



英語

| 得点範囲  | 度数   | %      |
|-------|------|--------|
| 100   | 152  | 4.6%   |
| 91~99 | 950  | 28.6%  |
| 81~90 | 1043 | 31.4%  |
| 71~80 | 626  | 18.8%  |
| 61~70 | 270  | 8.1%   |
| 51~60 | 171  | 5.1%   |
| 41~50 | 66   | 2.0%   |
| 31~40 | 25   | 0.8%   |
| 21~30 | 14   | 0.4%   |
| 11~20 | 3    | 0.1%   |
| 1~10  | 3    | 0.1%   |
| 0     | 1    | 0.0%   |
| 計     | 3324 | 100.0% |



## IV 結果の概要

### 1 抽出調査について

26 中学校の各学級 8 人（男子 4 名、女子 4 名）をそれぞれ出席番号の早い順に 1 番から 4 番までを抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、各クラスから 8 人の抽出を行うものとした。

### 2 抽出生徒数

学校数 学級数 抽出生徒数 26 校 97 学級 774 人（附属中含む）

## V 各教科の概要

### 1 教科の考察

#### (1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

#### (2) 正答率の高い問題について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

#### (3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

### 2 今後の指導

1 の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

## VI 読解力の視点からの考察

### 1 読解力

文部科学省によると読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと」と定義されている。一般的には、主語と述語の関係や、「それ」などの指示語が何を指しているのかなど、文章で表された情報を的確に理解する力である。また、「PISA 型読解力」とは、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、熟考する力であるとされている。

### 2 読解力の視点からみえる課題

今回分析をした各教科における読解力をみる問題の正答率は以下のとおりである。

| 国語    | 社会    | 数学    | 理科    | 英語    |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 20.2% | 38.6% | 55.9% | 71.6% | 88.6% |

国語、社会、数学の正答率は、いずれも 60%を下回っている。教科によって正答率にばらつきがあることから、読解力の育成が重要な課題であると言える。各教科の分析については、次頁以降に詳しく載せた。

全教科を通してみえてきた課題は、様々な情報を含む資料から目的に合った情報を読み取り、読み取った情報を関連づけながら課題について考えることである。加えて、記述式の問題の無答率が高いことから、文章や図表等の情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かす点においても課題がみられる。読解力の育成とともに、学習の基盤となる言語能力、言語能力を支える語彙力の育成も課題であると言える。

### 3 読解力の向上に向けた今後の指導

#### ○主体的な学びのある授業において

生徒が自らの課題解決に向けて学習を進めることにより、「解決のために必要なことは何か」「どこに着目して資料を読み取ればよいのか」が明確になり、多様な資料の中から目的に合った情報を読み取ったり、複数の資料から関連する内容を結び付けて考察したりする必要感が生まれる。目的意識をもって情報を収集し、整理・分析することで、「キーワードに着目する」「必要な部分に焦点を当ててグラフを読む」というように、必要な視点がみえてくる。このような学習過程を繰り返すことにより、読解力の向上が図られ、主体性のある生徒の育成につながることを期待できる。

#### ○教科の学びを支える言語能力とのかかわり

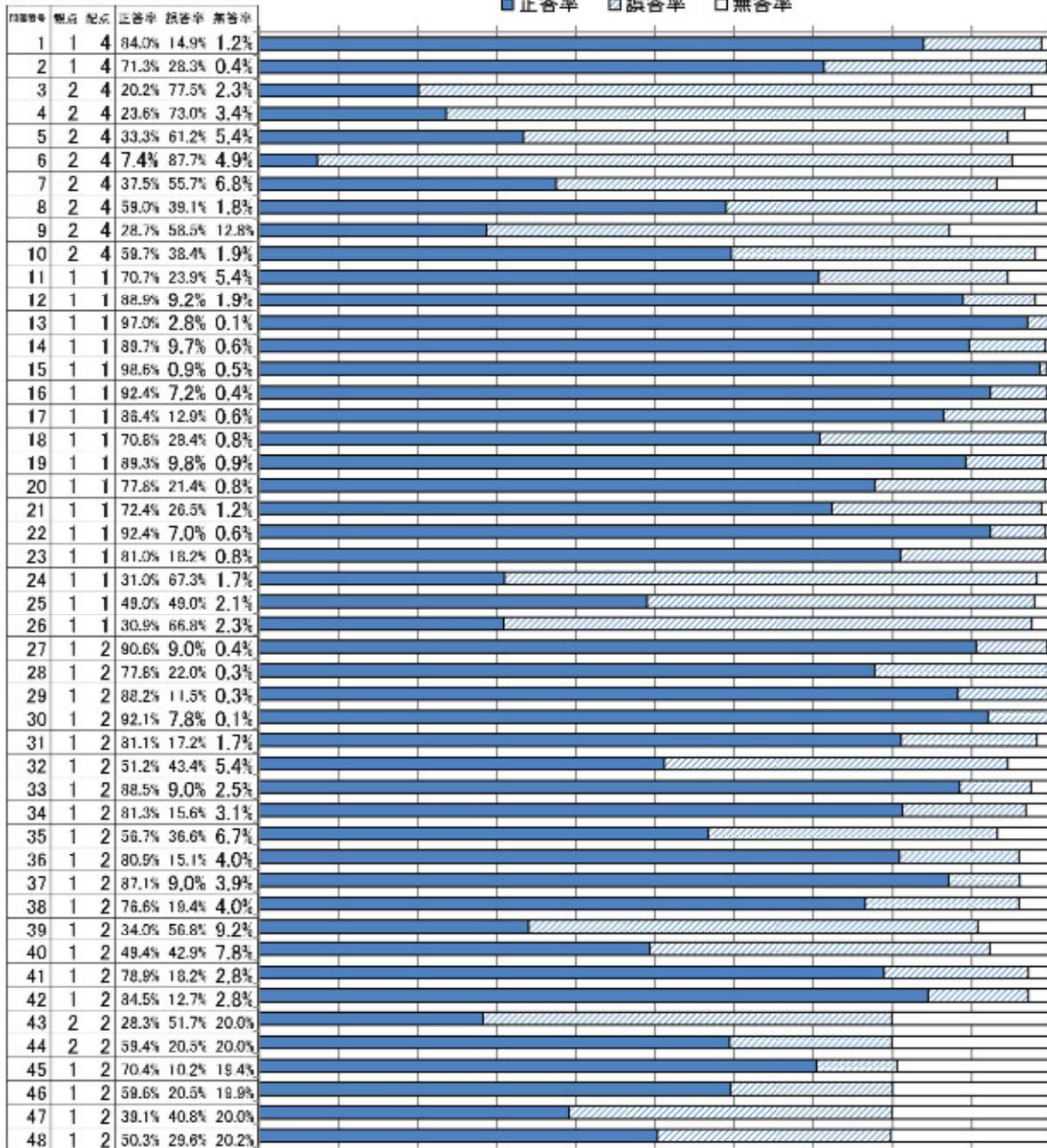
新聞や広報誌等の実用的な文章を読み、気になった記事を選んで紹介するなど、日常生活の中にある活字や文章に継続的に触れる機会を設けることで、生徒は新しい言葉や様々な表現に出会うことができる。国語科の学習においては、知らない言葉を端末や辞書で調べる、多様な表現を取り上げるなど、語彙を豊かにするための活動を重視することで、生活において必要な知識・技能が獲得できる。さらに、発達段階や実態をふまえ、身近な文章から読解力を高める読書活動への発展へとつながるよう、掲示物や図書の整備等の言語環境を整えておきたい。

Ⅶ 抽出生徒から分析する各教科の概要

(小数第2位で四捨五入してあるため、正答率、誤答率、無答率の合計が100%にならない場合がある。)

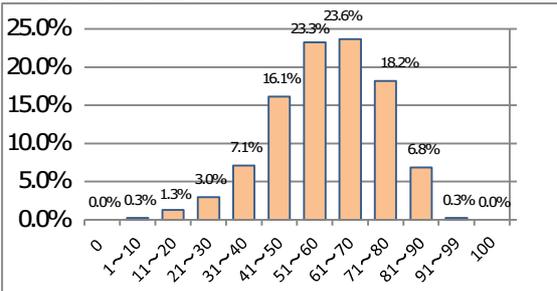
**国語** 抽出生徒数 774人 抽出平均 59.3点

【設問別正答率表・グラフ】

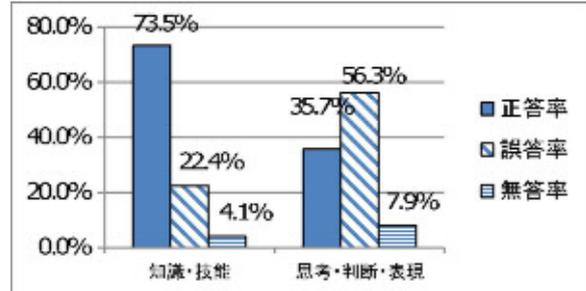


0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 国語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は59.3点であり、昨年度から18点低くなっている。観点別の正答率は「知識・技能(73.5%)」より「思考・判断・表現(35.7%)」が低く、説明的文章を読むことの問題(文中の言葉を文中の別の言葉で答える、文章と図を参考にして読む、筆者の考えを読み取るなど)や書くことの問題(投書から言葉や文を引用して書く、自分が取り組みたいことを具体的に書く)の正答率が低かったためと考えられる。全体の無答率は6%で昨年度の2.6%より増加しており、書くことの問題での無答が目立った。

### (2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」を問う問題では、送り仮名のない漢字を読む問題(通し番号13、15、16)の正答率が90%以上と高い。また、同音、同訓の漢字を選ぶ問題(通し番号27、30)の正答率も90%以上と高い。漢字や語句に関する基礎的な知識はおおむね定着していると考えられる。

### (3) 読解力と正答率の関連について

説明的な文章において、事例が挙げられている段落を全て書く問題(通し番号6)の正答率が7.4%と全設問中で最も低かった。設問の意図を正確に読み取り「雪の冷熱エネルギーを利用した施設」の事例が書かれた段落を見つけることができず、文章全体の構成をとらえ要旨を把握する力に課題がある。また、文中の言葉と同じ意味で用いられている言葉を答える問題(通し番号3)では、正答率が20.2%と低かった。文中の言葉の意味を文脈に沿って解釈し、関連した言葉を見つけることができていると考えられる。

(通し番号6)

筆者は「氷室」「『氷室』のすぐれた機能を利用した施設」以外にどのような事例を挙げていますか。その事例が挙げられている段落の番号を全て書きましょう。

(通し番号3)

「雪はエネルギーだ」とありますが、雪が生み出すエネルギーのことを文中では別の言い方で何と言っていますか。2つ書きましょう。

過去の類似問題でも正答率が低かった文の主語を選ぶ問題(通し番号24)の正答率は、31.0%(R2正答率29.3%、R3正答率32.3%)であった。設問の文は複文であり、述語の主体に留意しながら読む力を身につける必要がある。形や位置にとらわれず、文章中の語句の役割を正しくとらえていくことが継続した課題である。

(通し番号24)

\_\_\_\_\_の主語として適切な部分を、それぞれ一つ選び、その記号を書きましょう。

アこれは、イ昨日 ウぼくが エかいた オ白鳥の 絵です。

## 2 今後の授業に向けて

(1) 説明的な文章を扱う授業では、筆者の考えやその根拠、さらには筆者の思いか事実かなどを区別しながら読むこと、文章全体の構成、段落相互の関係をとらえて読むことが大切である。また、書き出しを指定して書く、筆者の考えを字数指定の中で要約する、キーワードを使ってまとめるなど、条件を設けて読み取った内容を書く活動も効果的である。生徒が興味をもった新聞記事、パンフレット、図表等から自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する機会をつくるなど、生徒の主体性を大切にしながら学習活動を進めたい。

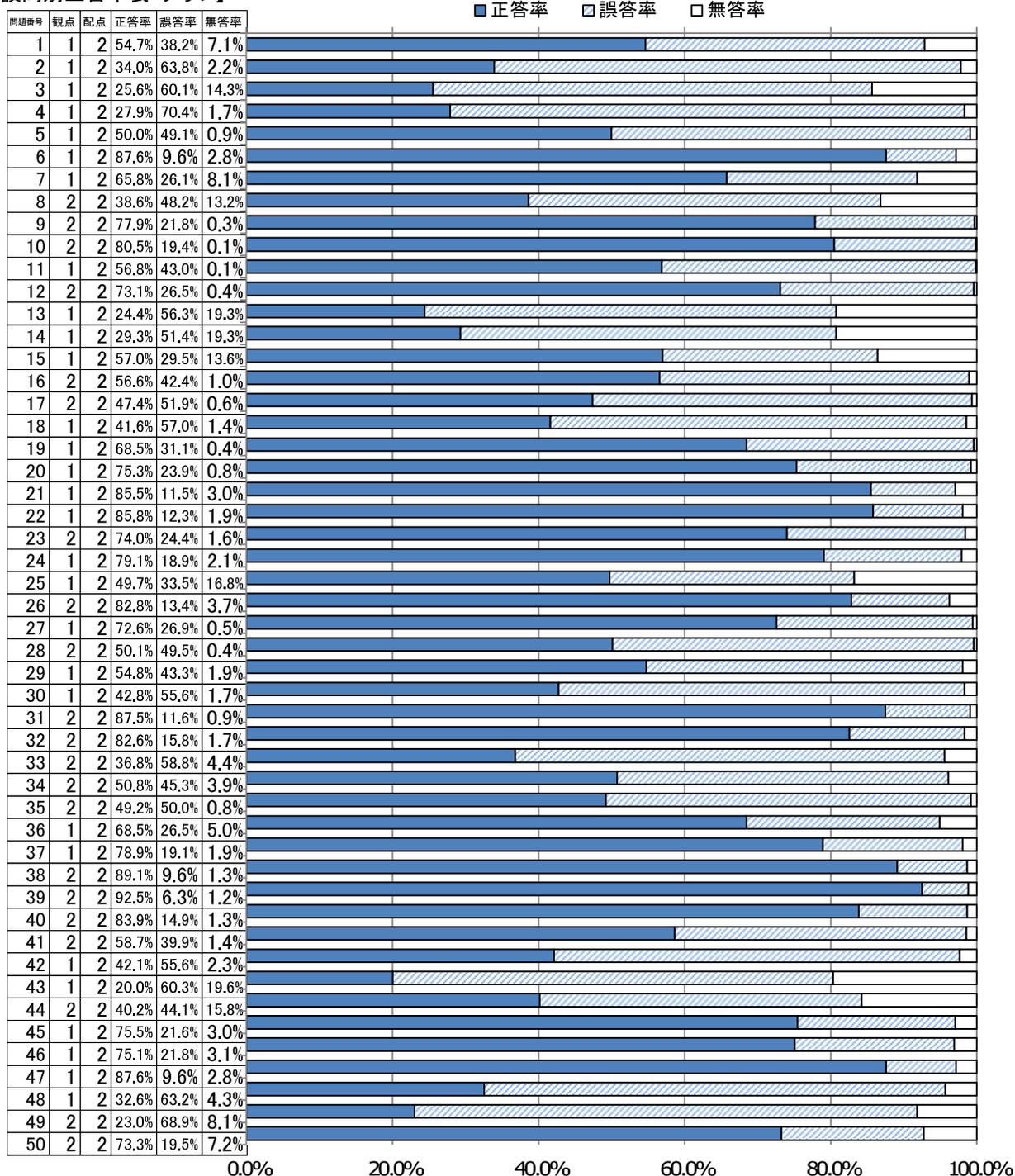
(2) 自分の考えを主張するためには、理由や事例を取り入れながら筋道を立てて自分の考えを述べる必要がある。立場をはっきりさせて書く、引用して書く、文章の構成を工夫して書く、適切な表現(主語と述語が呼応している、文のねじれがない)となるよう意識して書くこと等について継続的な指導を行いたい。また、考えとそれを支える理由や事例のつながりが明確か、事例は客観的な事実に基づいているかを生徒同士が互いに吟味する場を設けるなど、仲間の作品に触れることを通して自分の考えがより深まるような学習活動を大切にする。

**社会**

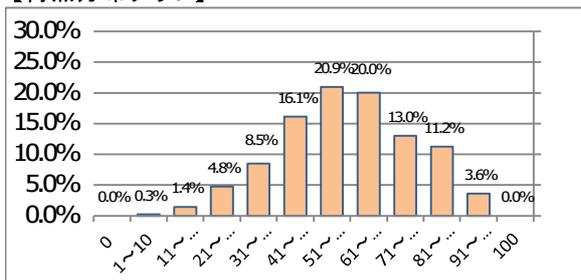
抽出生徒数 774人

抽出平均 60.0点

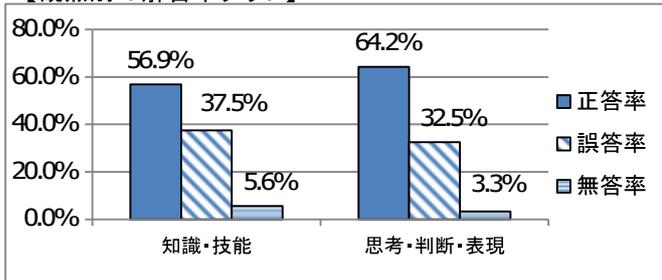
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 社会科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、60点である。観点別の正答率は、「知識・技能」が56.9%、「思考・判断・表現」が64.2%であった。

資料に当てはまる日本国憲法に定められた権利を選択する問題の正答率が高い一方で、地球儀や地図から日本と近隣諸国の位置関係を選択する問題や、資料から日本とつながりの深い国とその国の特色を選択する問題の正答率が低い。事象の特色や意味まで理解できるように、地図や写真から空間的な広がりをとらえたり、グラフから読み取ったことを既習事項と比較、関連づけたりするといった資料活用の学習場面を充実させることが求められる。

無答率が10%以上の問題は8問あり、昨年度(11問)より減少した。工業地帯・地域の名称や立法府の名称、「経線」「ご恩と奉公」「太平洋ベルト」等、語句を答える問題の無答率が高い。また記述式の問題の無答率も高く、生徒自らが活用できる知識として習得できるようにする必要がある。

### (2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」を問う問題では、日本の近隣諸国の国名を書く問題や、歴史上における日本と外国とのつながりを選択する問題、裁判所の働きを選択する問題(通し番号6、21、22、47)の正答率が高かった。また、「思考・判断・表現」を問う問題では、条約改正による国際的地位の向上に関する事柄を選択する問題や、日本国憲法に定められた権利を選択する問題(通し番号31、32、38、39、40)の正答率が高かった。既習事項や生活経験と結びつけて社会的事象の特色をとらえる力がついていると考えられる。

### (3) 読解力と正答率の関連について

日本の最南端の島が沈まないようにしている理由について、周辺諸国や東京からの距離を示す同心円等、様々な情報を含む資料から、日本の国土の広がりに着目し、島が沈むと領土や排他的経済水域に影響が出ること判断して適切な言葉で表現する問題(通し番号8)は、正答率が38.6%と低かった。複数の情報が含まれる資料から、問題の解決に必要な情報を選び出し、そこに書かれている情報を活用して考えをつくることに課題がある。

(通し番号8)

(6) 【資料3】は、日本の最も南のはしに位置する島の写真です。この島では、まわりをコンクリートブロックで囲み、しずまないように工事しています。このような工事をしているのはなぜですか。【資料2】をもとに、「この島がしずまど」に続くように説明しましょう。

【資料3】 日本の南のはしの島



(東京書籍 新しい社会5年上)

【資料2】 国土の広がりともわりの国々



日本の排他的経済水域(200海里水域)  
○ 白島の沿岸から200海里(約370km)までは、天然資源開発などの権利が認められています。

(東京書籍 新しい社会5年上)

## 2 今後の授業に向けて

(1) 資料から必要な情報を読み取る力を養うためには、どの資料から何を読み取るのかという目的意識を明確にした活動が必要である。そのために、「なぜ源頼朝は鎌倉に幕府を開いたのか」「なぜ自動車の海外での生産台数が増え続けているのか」といった生徒の思考にずれを生み、ゆさぶりをかけるような学習課題を設定し、納得解を求めて学習する状況をつくる。そして、このような学習課題を解決していく過程で、生徒自ら資料を集め、既習事項と結びつけたり、互いに分かったことや考えたことを交流したりしながら、資料を読み取る力を高めていくことが大切である。

(2) 社会的事象の意味や特色について理解を深めるためには、多面的・多角的に事象をとらえる力が必要である。例えば、日本の水産業について「生産量」「輸入量」「就業者数」といった多面的な見方ととらえるだけでなく、「これからの日本の水産業はどうあればよいのか」という学習課題を設定し、「生産者」と「消費者」といった異なる立場に立って考えるように学習活動を工夫する。そうすることで、相互の社会的事象に関連が生まれ、知識を関連づけながら習得することができる。また、自分の生活とのかかわりから考えることも理解を深めるために有用であり、社会参画への態度形成につながることもできる。

# 数学

抽出生徒数 774人

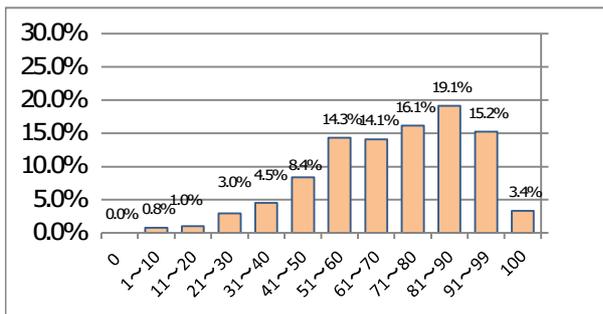
抽出平均 70.0点

【設問別正答率表・グラフ】

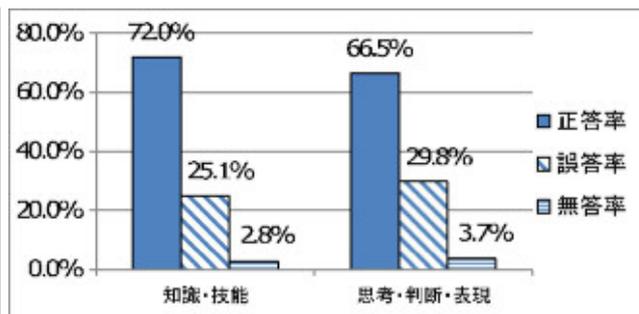
| 問題番号 | 観点 | 配点 | 正答率   | 誤答率   | 無答率  |
|------|----|----|-------|-------|------|
| 1    | 1  | 2  | 84.8% | 15.2% | 0.0% |
| 2    | 1  | 2  | 74.8% | 24.0% | 1.2% |
| 3    | 1  | 2  | 86.6% | 13.2% | 0.3% |
| 4    | 1  | 2  | 90.3% | 9.4%  | 0.3% |
| 5    | 1  | 2  | 87.9% | 11.4% | 0.8% |
| 6    | 1  | 2  | 65.0% | 30.9% | 4.1% |
| 7    | 1  | 2  | 79.6% | 20.2% | 0.3% |
| 8    | 1  | 2  | 96.6% | 3.0%  | 0.4% |
| 9    | 1  | 2  | 76.2% | 20.2% | 3.6% |
| 10   | 1  | 2  | 73.9% | 22.2% | 3.9% |
| 11   | 1  | 2  | 50.1% | 49.4% | 0.5% |
| 12   | 1  | 2  | 40.8% | 55.6% | 3.6% |
| 13   | 1  | 2  | 44.2% | 49.9% | 5.9% |
| 14   | 2  | 2  | 87.5% | 11.1% | 1.4% |
| 15   | 1  | 2  | 72.6% | 25.7% | 1.7% |
| 16   | 1  | 2  | 95.0% | 4.3%  | 0.8% |
| 17   | 1  | 2  | 71.8% | 27.1% | 1.0% |
| 18   | 1  | 2  | 83.7% | 11.6% | 4.7% |
| 19   | 1  | 2  | 79.2% | 18.9% | 1.9% |
| 20   | 1  | 2  | 65.0% | 30.7% | 4.3% |
| 21   | 1  | 2  | 56.1% | 43.4% | 0.5% |
| 22   | 1  | 2  | 93.2% | 6.6%  | 0.3% |
| 23   | 1  | 2  | 60.7% | 34.8% | 4.5% |
| 24   | 1  | 2  | 77.9% | 20.8% | 1.3% |
| 25   | 1  | 2  | 80.6% | 16.4% | 3.0% |
| 26   | 1  | 2  | 35.8% | 59.9% | 4.3% |
| 27   | 1  | 2  | 52.7% | 37.9% | 9.4% |
| 28   | 1  | 2  | 82.7% | 14.9% | 2.5% |
| 29   | 1  | 2  | 62.0% | 31.1% | 6.8% |
| 30   | 1  | 2  | 53.4% | 39.0% | 7.6% |
| 31   | 1  | 2  | 53.1% | 38.9% | 8.0% |
| 32   | 2  | 2  | 69.6% | 20.4% | 9.9% |
| 33   | 1  | 2  | 97.9% | 1.2%  | 0.9% |
| 34   | 1  | 2  | 78.4% | 20.2% | 1.4% |
| 35   | 1  | 2  | 85.0% | 11.0% | 4.0% |
| 36   | 2  | 3  | 52.6% | 45.6% | 1.8% |
| 37   | 1  | 3  | 61.9% | 35.3% | 2.8% |
| 38   | 2  | 3  | 80.4% | 18.2% | 1.4% |
| 39   | 2  | 3  | 67.6% | 30.6% | 1.8% |
| 40   | 2  | 3  | 53.2% | 44.3% | 2.5% |
| 41   | 2  | 3  | 40.1% | 57.6% | 2.3% |
| 42   | 2  | 3  | 75.2% | 21.7% | 3.1% |
| 43   | 2  | 3  | 69.0% | 25.1% | 5.9% |
| 44   | 2  | 3  | 55.9% | 37.7% | 6.3% |
| 45   | 2  | 3  | 80.6% | 15.4% | 4.0% |

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 数学科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、70.0点であり、昨年度より4.4点高くなっている。観点別の正答率は「知識・技能」が72.0%、「思考・判断・表現」は66.5%であった。領域別に正答率を比較すると、「A数と計算」が77.2%、「B図形」が75.3%「C測定、変化と関係」が59.7%、「Dデータの活用」が75.8%であり、「C測定、変化と関係」だけが、昨年度同様に60%を下回っている。さらに、正答率が45%以下の問題はすべて「C測定、変化と関係」の領域であり、この領域における学習に課題が見られる。

### (2) 正答率の高い問題について

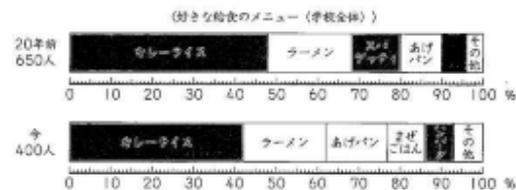
小数を相対的にとらえる問題（通し番号8）、線対称な図形の性質を用いて対応する直線を求める問題（通し番号16）では、正答率が95%を超えている。また、度数分布を表す表からグラフを選んだり、値を読み取ったりする問題（通し番号33～35）では、3問の平均正答率が87%を超えていることから、データの考察に関する基本的な知識が定着していると考えられる。

### (3) 読解力と正答率の関連について

帯グラフのめもりを読み、百分率を求める問題（通し番号42）は、正答率が75.2%である。この百分率で表される割合（通し番号42）と、もとにする量（基準量）を用いて比べられる量（比較量）を求める問題（通し番号43、44）の正答率は、69.0%、55.9%と徐々に低くなっている。問題内に示されている3人の会話（中略）から「もとにする量」が「全体の人数」であることを読み取れず、「もとにする量」と「比べられる量」の関係性を理解していなかったために立式できなかったと考えられる。このことから、割合を用いる問題場面においては、数直線等を活用して数量の関係性を可視化し、立式することが大切である。

（通し番号42、43、44）

- [17] 右の帯グラフは、20年前と今の、好きな給食のメニューについて学校全体で行ったアンケート結果を表したものです。  
（中略）



こうたさん

グラフを見ると、あげパンの割合は、20年前は (1) %、今は (2) %です。  
20年前の割合と今の割合は、「もとにする量」がちがうので、割合だけでは比べることはできません。  
20年前と今のあげパンを選んだ人数を求めると、  
20年前…全体の人数は650人だから、(3) × =  
今 …全体の人数は400人だから、(4) × =  
このことから、今の方があげパンを選んだ人数が (5) 多い・少ない です。

## 2 今後の授業に向けて

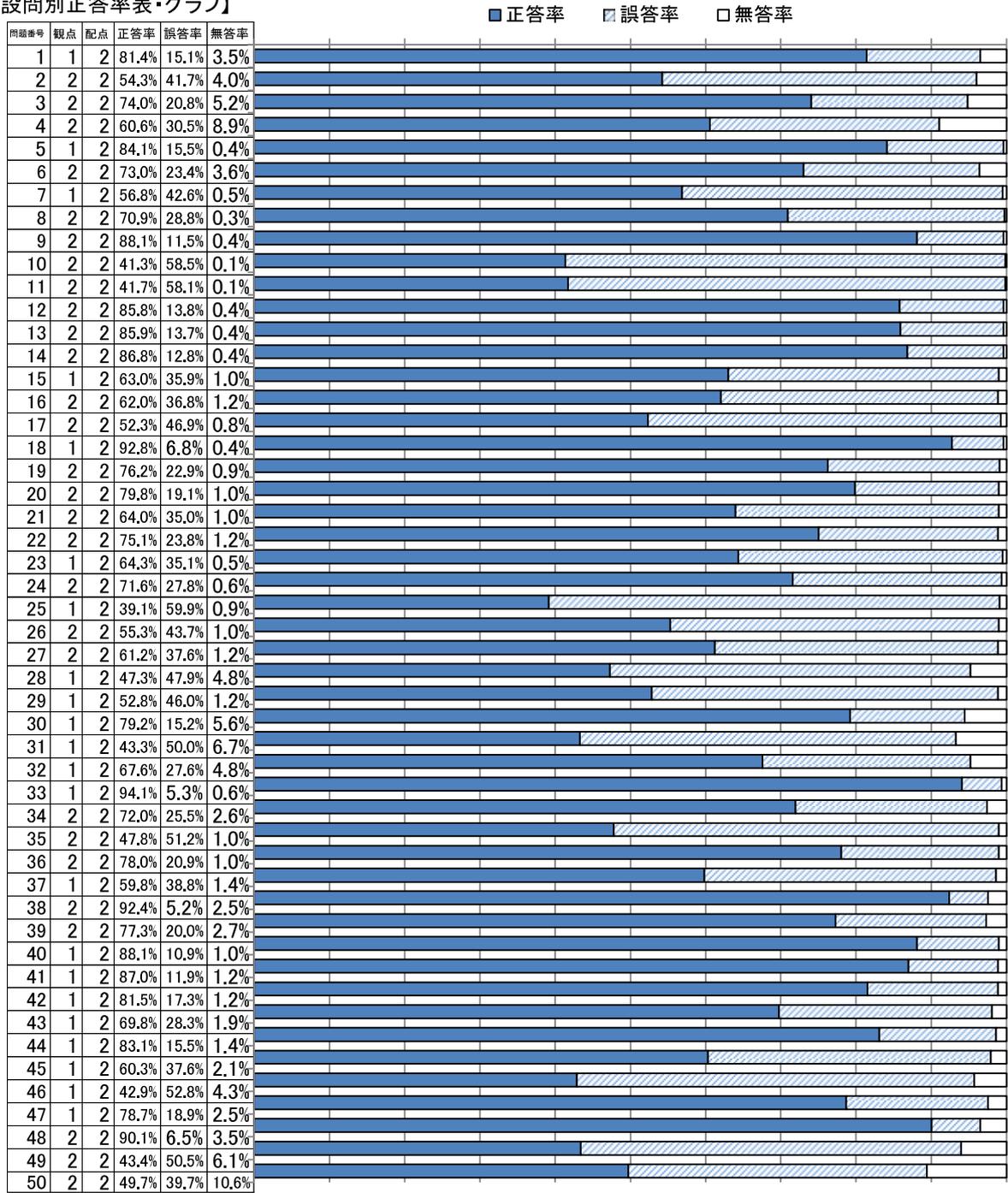
- 「データの活用」の領域では、「給食の人気メニューは何だろう」など、生徒の身の回りの事象を取り上げ、数学的活動を通して「問題－計画－データの収集－分析（分類・整理）－結論」の統計的な問題解決の方法を知り、そのよさや意味の理解を深める。その上で、導いた結論を、資料（グラフや表等）を提示して発表、紹介し合うことで、問題解決に向けた計画やデータの収集・分析が適切であったかを振り返ったり結論の妥当性について批判的に考察したりしながら思考力・判断力を育むようにしたい。
- 「測定、変化と関係」の領域では、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係に注目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて変化の様子を調べ、それぞれの特徴を比べるなどの活動を取り入れることが肝要である。例えば、針金の長さや針金の重さの関係や10kmを走る自転車の速さとかかる時間の関係など、身の回りにある事象を取り上げ、実感を伴う理解につなげる。

理科

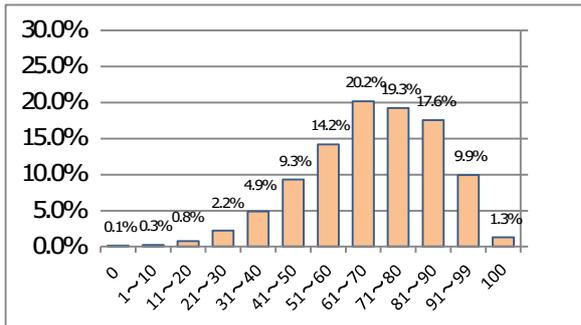
抽出生徒数 774人

抽出平均 68.6点

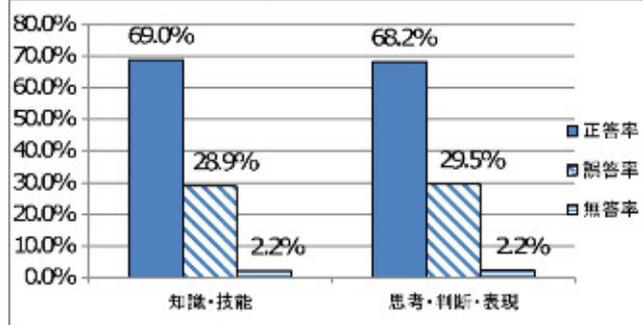
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 理科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 68.6 点であり、昨年度より 1.5 点高くなっている。観点別の正答率は観察・実験の知識・技能が 69.0%、思考力・判断力・表現力は 68.2%であった。無答率が 6%を越えた問題は 4 問（問題数全体の 6%）であり、昨年度と同数であった。そのうちの 3 問は課題解決のための実験方法を説明する問題、1 問は実験器具の使い方を説明する問題であった。実験や観察の結果から事実や規則性を関連付けて考え、自分の考えを表現することに課題があると考えられる。

### (2) 正答率の高い問題について

自然の事物・現象の性質等を理解しているかをみる問題のうち、3 問（通し番号 18、33、38）は 90%以上の正答率であった。この 3 問は、てこの支点、力点、作用点をとらえる問題（通し番号 18）、おぼなとめばなのある植物の受粉と結実の関係についてとらえる問題（通し番号 33）、物が燃えると空気中の酸素の一部が使われて二酸化炭素ができることをとらえる問題（通し番号 38）であった。いずれも実験や観察を通して得られる知識・技能であることから、目的意識をもって観察や実験を行うことにより、実感を伴った理解ができていると考えられる。

### (3) 読解力と正答率の関連について

月の形の見え方は、太陽と地球と月の位置関係によって変わることを理解し、月の形について推論する問題（通し番号 24）の正答率は 71.6%であった。この問題では、問題文と「9 月 14 日の観察記録」から 9 月 9 日の太陽と月の位置に関する情報を読み取り、既習の「月の輝いている側に太陽があること」、「月の形の見え方は、太陽と月の位置関係によって変わる」という知識・技能を活用し、9 月 9 日の月の形の見え方を推測する力が求められる。問題文や図の中から、必要な情報を整理・選択し、学習した知識・技能を活用して考える力がついていると考えられる。

(通し番号 24)

(2) 日ぼつ直後に見える月の形と、方位を観察して記録しました。図1は9月14日の観察記録です。

① 9月9日の観察では、同時刻に⊗の位置に見えました。

この時の月は、どのような形に見えたと考えられますか。次のA～Fから1つ選んで記号で答えましょう。



A



B



C



D



E



F

**図1 日ぼつ直後の月の形と位置**

9月14日 富山 太郎



9月9日

半月が、南の空に見えた。





太陽がしずんだ位置



南



西

← 東 →

## 2 今後の授業に向けて

(1) 理科の見方・考え方を働かせながら、自然の事物・現象に影響を与える要因や解決の方法をとらえられるように授業改善を進めていく必要がある。そのためには、「より強力な空きかん拾い機をつくろう」など、生徒が解決したい、要因を探りたいと願う現象に出会う場を意図的につくるのが大切である。そして、見いだした問題に対して、予想や仮説を発想し、検証するための計画を立て、試行錯誤を繰り返しながら観察や実験を進める学習過程を確保するよう心がけたい。生徒が計画を立てる際には、例えば、仮説を基に「電池を直列つなぎにしたら」「電池を並列つなぎにしたら」というように、どの条件が事象に影響するのか、そこからどのようなことがいえるのかを見通すことができるように、実験前の段階を丁寧に扱うことが必要である。

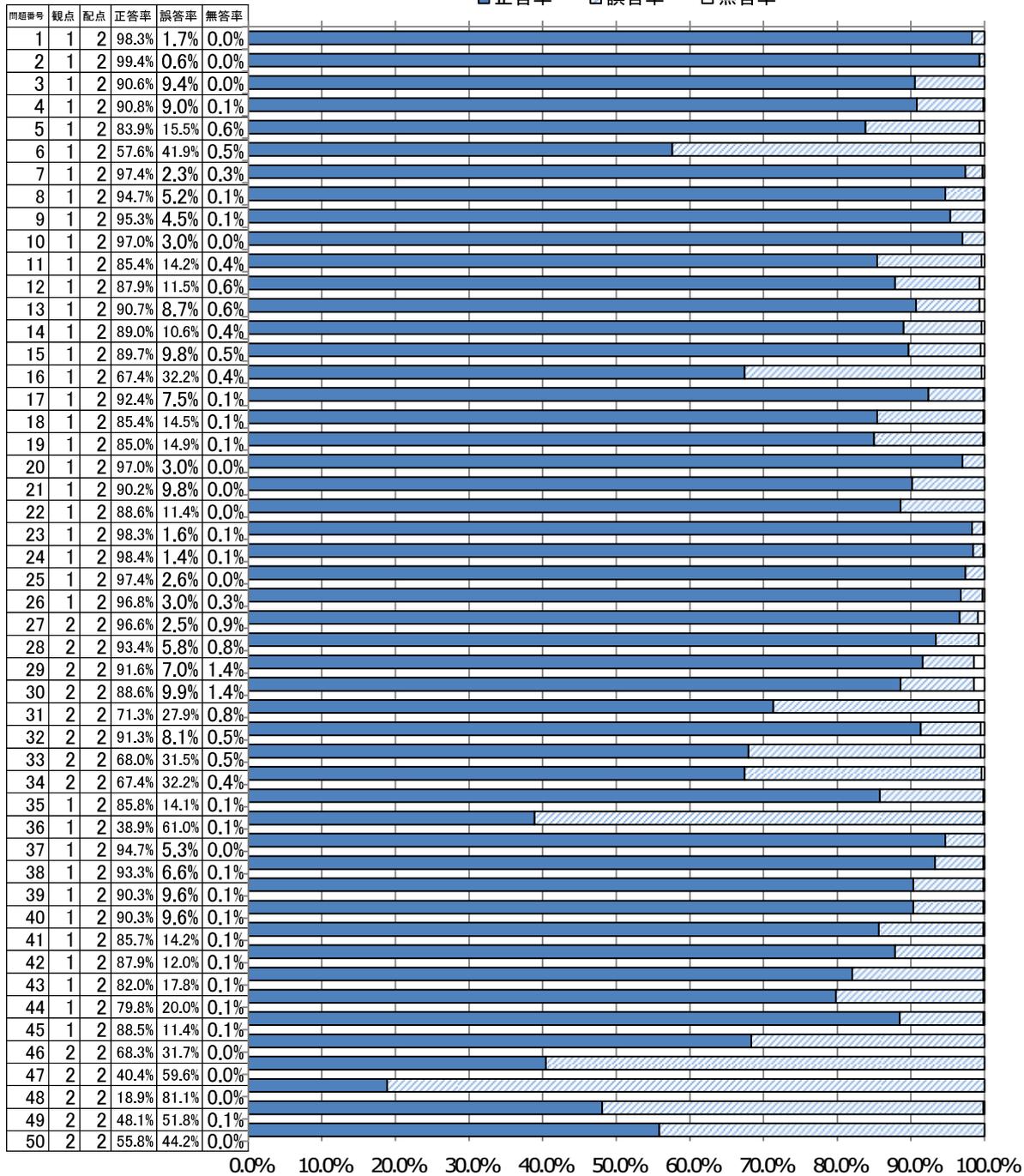
(2) 科学的に解釈する力や表現する力を育成するためには、観察・実験の結果を基に作成した図・グラフ・表から規則性をとらえ、「何のために（目的）何に注目して（見方）どのように（考え方）」を明確にした上で、自分の考えをまとめていくことを積み重ねることが大切である。端末を使って、グラフや写真等を用いながら意見を交流するなど、観察・実験の結果から根拠をもって自分の考えをつくり、表現する機会を充実させていくことも有効である。

英語

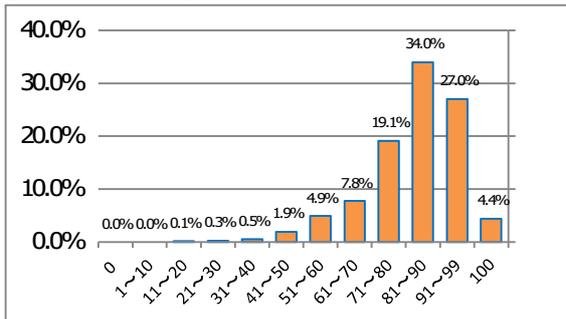
抽出生徒数 774人

抽出平均 83.2点

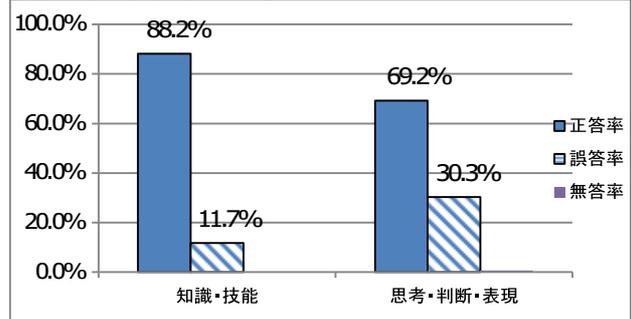
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 英語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は83.2点であり、受検者のうち、約65%が81点以上であった。また、50問中、無答率が1%を超えたのは、2問（通し番号29、30）のみであった。観点別にみると、「知識・技能」の正答率が88.2%、「思考・判断・表現」の正答率が69.2%と、「思考・判断・表現」が「知識・技能」に対して19%低くなっている。

### (2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」（全37問）に関する問題では、アルファベットの聞き取り（通し番号7～10）、人物のできること、できないことの聞き取り（通し番号23～26）、英単語の意味を表すイラストを選ぶ問題（通し番号37、38）、示された場面において、相手に質問する表現を選ぶ問題（通し番号39、40）の正答率が9割を超えた。

「思考・判断・表現」（全13問）に関する問題では、日常生活に関する事柄についての質問を聞き、適切に答えている表現を選ぶ問題（通し番号32）の正答率が9割を超えた。

### (3) 読解力と正答率の関連について

【9】 ゆきとトムが中学校で入りたい部活動について話しています。下の(1)、(3)には、それぞれの入りたい部活動を下のア～エの中から選んで、記号で答えましょう。また(2)、(4)には、それぞれ日本語を書き入れ、理由を完成させましょう。

|     | 入りたい部活動 | その理由             |
|-----|---------|------------------|
| ト ム | (1)     | (2) ( )ことが得意だから。 |
| ゆ き | (3)     | (4) ( )ことが得意だから。 |

ア



イ



ウ



エ



対話を聞き、「中学校で入りたい部活動と理由」について、それぞれが入りたい部活動をイラストから選び（通し番号27、29）その理由を日本語で答える問題（通し番号28、30）である。それぞれの正答率は、96.6%、91.6%、93.4%、88.6%であった。2人のやりとりの内容や文の構造を理解する力等、基礎的な力が身につけていると考えられる。

## 2 今後の授業に向けて

- (1) 「知識・技能」において、小学校の外国語活動・外国語科では、場面設定を行ったうえでコミュニケーションを楽しむことを大切にしている。アルファベットや英単語の定着を図るために、歌やチャンツ等を取り入れながら繰り返し音声に慣れ親しんだり、実際に絵や映像資料を見て発音したりしながら、体験的に言語や文化の理解を深められるようにしたい
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、音声としてよく耳にする英単語や既習の文章表現を授業で積極的に取り入れ、生徒が安心して学習に取り組むことができるようにしたい。その際、生活場面でコミュニケーションを行うことを想定することで、英語で考えや気持ちを伝えることへの興味や関心が高まり、「自分のことを何とかして相手に伝えたい」という切実感につながる。
- (3) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うために、生徒の生活や身近なニュース、共通して体験していること等から話題を取り上げることが有効である。質問したり答えたりといった短い会話でやり取りする場면을継続的に設けることで、伝え合うことができたことへの自信が付き、コミュニケーションを図ることの楽しさを実感することができる。生徒の「伝えることができてうれしい」「相手のことが分かってくれうれしい」という思いの高まりが主体的な学びにつながる。